

【学校評価実施方法】

(1) 今年度の実践目標の項目1～36について、本校全教職員による「4段階評価」を実施する。

4……よくできている 3……できている 2……あまりできていない 1……できていない

(2) 各項目ごとに平均をとり、その平均値について次の基準でA～Dの達成段階をつける。

平均値⇒達成段階 1.0≦x<2.0⇒D、2.0≦x<2.8⇒C、2.8≦x<3.5⇒B、3.5≦x≦4.0⇒A

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	評価 4～1	A～D	自己評価	学校関係者評価
確かな学力の定着	臨時休業に対応した生徒の学力保障の研究	1	G Suite、スタディサプリの効果的な活用	3.0	B	臨時休業下で取組を余儀なくされる形でスタートしたが、教職員間の取組に差が見られた。さらに学校全体での取組としていく必要がある。	ICT教育支援サービス（G Suiteなど）をより効果的に活用するための教職員への研修を深めていって欲しい。
		2	適切な課題の提示とG Suite等の活用によるフォローの実施	2.9	B		
	授業研究の推進と授業力の更なる向上	3	公開授業週間を利用した相互授業参観や研究授業の実施	2.5	C	制約された中でも研究授業や授業研究会での取組をすすめたが、授業評価を生かしたり、教員相互で授業参観を行うなどの取組については、効果的に授業改善につなげるという点では、不十分であった。さらに教職員の意識を高める必要がある。	授業を見せ合ったり、生徒アンケートを活用することをさらに進めて欲しい。アンケート結果からは、一層の授業改善の必要を感じる。授業研究に際しては、授業の様子を録画し、互いに意見交換することをすれば、より効果的に研究ができるのではないかとと思う。
		4	生徒授業アンケートの実施とその結果の活用による授業改善	2.8	B		
	生徒に家庭学習習慣を確立させ、自立した学習者に育てる指導	5	予習・復習の指導徹底	2.9	B	適切な学習課題の提示については、教職員間での一層の連携が求められる。	ICT教育支援サービス（G Suiteなど）をより効果的に活用するために教師間での情報交換が必要である。
		6	適切な課題の提示	2.9	B		
進路指導・キャリア教育の充実	3年間を見通した進路指導・キャリア教育の実施と明確な目標の設定	7	生徒面談による進路相談実施と、進路目標設定の支援	3.1	B	学校全体で3年間を通した育成計画の必要がある。	卒業生を招いて体験等を語ってもらうなどの取組の工夫が、いい効果につながると思う。
		8	職業について考えさせるなど、キャリア形成を支援する機会の充実	2.8	B		
	進路講演会（含保護者）と高大連携の推進	9	生徒向け、保護者向け進路講演会の計画的な実施	3.1	B	制約された中でも進路指導部と学年とが連携して取り組めた。	卒業生の大学院生などを招き、シンポジウムの形式で行うなどの工夫をすることにより、一層の効果が上がると思う。
		10	大学の研究者等による講演会の実施	3.1	B		
	大学入学共通テスト等、高大接続改革に係る情報収集と生徒・保護者への適切な情報提供	11	学年集会、保護者会等を活用しての情報提供	3.2	B	制約された中でも取り組めた。一方で大学や企業の受け入れが難しく、期待した成果を得ることは難しかった。	ICT教育支援サービスを効果的に活用して、企業や大学等とオンラインでやりとりすることも可能である。
		12	大学や企業等の訪問や講演会、体験授業への参加機会の提供充実	2.8	B		
生命科学類型の充実と探究活動の充実	生命科学類型の教育活動の更なる充実	13	探究活動の指導の充実	2.9	B	制約された中でも取り組めたが、さらに全教職員が携わり、学校全体での取組に高めていく必要がある。また生命科学類型の学科としてのあり方やカリキュラムについては、教職員間での一層の共通理解を図る必要がある。	探究活動や特色化に向けた取組について、教職員間で十分に協議し、共通理解を図るべきである。YouTube動画で、他府県の実践事例が見られるので、それを見ながらより研究を深めることも必要と考える。
		14	2学年を中心とする探究活動の充実および、ひょうごスーパーハイスクール事業計画の作成、指導の開始	2.8	B		
意思統一が図られた生徒指導と安全教育の徹底	挨拶と学習生活にふさわしい身だしなみの指導	15	端正な身だしなみの指導の徹底	2.6	C	拡大生徒部会を週1回実施し、生徒指導についての共通理解を図るとともに体調不良者等の情報交換、共有ができた。こうした取組をさらに進め、組織的な生徒指導体制づくりにつなげる。	生徒の自主性を尊重し、生徒が考え行動する仕組みを整え、それを支援することが大事である。
		16	挨拶の習慣づけの指導	2.6	C		
		17	登下校時の通学マナー・交通ルールの遵守	2.7	C		
		18	SMSの適切な使用についての指導の徹底	2.7	C		
部活動の充実	ノ一部活動デーの実施による部活動の適切な目標設定と効果的・効率的な練習の確立	19	部活動ごとのノ一部活動デーの設定と実施	2.8	B	教職員間の共通理解を図るとともに組織的な部活動指導体制づくりが必要である。	教職員間で十分に協議し、共通理解を図るべきだが、生徒にも部活動の在り方について十分に考えさせる必要がある。
		20	効率的な練習と下校時間の厳守	2.7	C		
清掃の徹底	日々の清掃指導の徹底	21	各清掃監督による指導の徹底	2.7	C	職員・生徒の意識づくり、ルール作りの必要がある。	ルール作り等も生徒に考えさせるなどを通じた意識付けの必要がある。
		22	定期的・効果的な校舎内外の清掃の実施				
積極的な情報発信	HPのタイムリーな更新と学年通信等の配布	23	行事ごとの速やかな情報発信	2.8	B	学年通信などは、予定通り出せた。一方で学校HPは、担当部署が明確になるとともに、積極的な広報体制づくりをすすめていく必要がある。	学校の紹介プレゼン等も、生徒と教師で協働してつくり上げる視点が重要。そのことを通じて生徒の意欲を高めていくことができる。
		24	学校紹介プレゼン等のHPへのアップ	2.8	B		
		25	定期的な学年通信の発行による情報発信	3.1	B		
	公開授業週間の実施	26	公開授業の円滑な実施	3.0	B	公開授業週間は、多くの中学生や保護者を学校全体で受け入れる体制を作ることができた。夏のオープンハイスクールは中止したが、10月の学校での説明会、校外での3回の説明会を実施できた。いずれの場所でも中学生・保護者の感想は非常に良好であった。	授業説明の動画などを生徒に作成させ、発信している学校もある。一層の工夫を期待したい。
		27	生命科学類型説明会の充実	3.2	B		
		28	授業公開や校外での学校説明会などの広報活動の充実	3.2	B		
ふるさと貢献活動の充実	学校周辺の清掃をはじめ各種ボランティア活動の推進	29	地域清掃の実施				
		30	部活等による地域貢献活動（施設訪問、スポーツ教室等）				
特別支援教育・命と心の教育の充実	特別支援教育委員会の効果的開催	31	生徒の状況について職員間の情報共有	2.9	B	2名のカウンセラーによる、生徒・保護者のニーズに合わせたカウンセリングを実施した。カンファレンスを通して学年・関係職員とカウンセラーが連携し、生徒への支援、指導へとつなげることができた。特別支援教育や人権教育については、学校全体での取組の必要がある。	コロナ禍のもと、さまざまな人権問題がおきている。生徒一人一人が、人権課題を自分ごととして捉えることができる活動（ホームルーム活動等）を展開して欲しい。
		32	キャンパスカウンセラーとの密な情報共有と細やかな生徒、保護者対応	3.2	B		
		33	人権ホームルームの充実と講演会等の実施	2.5	C		
勤務時間の適正化	定時退勤日とノ一部活動デーの推進	34	定時退勤日の実施	2.2	C	Garoonを活用した情報共有体制は定着した。一方で勤務時間の適正化についての啓発と学校全体での取組の必要がある。また文書サーバーのルールについても共通理解の必要がある。	Garoonなど、ICTを活用し、情報共有等行っていくことはとても素晴らしい。これらの活用さらに効果的にいき、勤務時間の適正化に役立てて欲しい。
		35	ICTの効果的な活用による各種会議の時間短縮の推進	3.0	B		
		36	ICTの効果的な活用による校務の効率化の工夫	2.7	C		